

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 27
2018.12

We are 51_{ng} to 高麗祭!

 城西大学
 城西短期大学



シリーズ (フォーカス)

日高市消防団長 / 付属川越高校美術部

男子駅伝部

全日本駅伝8位入賞 シード権奪取

高塚人志氏「コミュニケーション」特別授業

目次

- 02 We are 51ng to 高麗祭!
「平成の集大成!!」総まとめ担う思い込め
- 03 第2回 3大学合同大学祭
城西大、城西短期大、城西国際大学の学生が
主体となり運営
- 04 「地域と大学」開講中 昨年に続き2回目
地域連携活動報告会
体験から得た学びの成果を報告
東松山市長 森田光一氏が講演
姉妹校留学生の歓迎会 130人参加
- 05 高塚人志氏「コミュニケーション」特別授業
「城西大学スピーチコンテスト」開催
日本語スピーチ/中国語スピーチ/英語スピーチ
- 06 男子駅伝部 全日本駅伝8位入賞 シード権奪取
女子駅伝部 関東選手権8位入賞
杜の都駅伝は14位
食でスポーツをささえる、サークル誕生
本学体育館でプロバスケットBリーグ試合
- 07 [新シリーズ]フォーカス
日高市消防団長 和田貴弘さん
付属川越高校美術部
- 08 [シリーズ]先輩訪問
株式会社ビコー取締役社長 瀧澤秀和さん
- 09 [シリーズ]学生瓦版
浮世絵取組品展「三代豊国一國周一周延」
坂戸市所蔵美術品展「現代版画の世界」後期展
- 10 [シリーズ]図書館だより
- 11 [エリア紹介]
越生町 武蔵越生七福神めぐり
毛呂山町 日本最古の生産ゆず「桂木ゆず」
東武線沿線情報
見どころいっぱい横浜ベイエリア

We are 51ng to 高麗祭!

「平成の集大成!!」総まとめ 担う思い込め

2018
11.3
~5

城西大学の一大イベント、第51回「高麗祭」が11月3日から5日まで開かれました。今年のテーマは「平成の集大成!! ~We are 51ng to 高麗祭!~」でした。11月3日に行われた開祭式で宮川慧斗実行委員長(経済学部4年)は「今年が平成という年号が最後の年であり、51回目の高麗祭ということで、平成の総まとめを担うという思いを込めてこのテーマを作らせていただきました。城西大学を、そして高麗祭を新しい世代へつなぐ懸け橋となるよう、高麗祭を作ります」と挨拶しました。

来賓挨拶で白幡晶学長は「これからの城西を盛り上げる皆さんが、団結を確認する場にいただければ」と呼びかけ、石川清・坂戸市長が大きな声で「3日間、皆さんはお祭りをいっぱい、いっぱい楽しんでください。坂戸市は城西大学の言うことは何でも聞きます」と述べると、会場から大きな拍手が湧き起こりました。また、伊藤月芽・中央委員会委員長(経済学部4年)は「記憶に残る特別な高麗祭になるよう、私たちが精いっぱい盛り上げていきたいと思っております」と述べました。

この後、ハンガリーやポーランド、中国、韓国などからの留学生13人が、ステージ前に立ち、代表してハンガリーからのチズマディア・レーカさんが「これからの限り、多くの知り合いをつくりたいと思います。私たちのブースに立ち寄ってください。豊かで忘れがたい秋のお祭りにしましょう」と述べました。



好天に恵まれ地域からも多くの来場者

4日昼ごろに小雨が降ったほかは、好天に恵まれました。「家電芸人」のかじがや卓哉さんの講演会やトレンドイエンジェル斎藤さんや中川家、もう中学生さんらのお笑いライブのほか、シューレースのパフォーマンスや全学応援団チアリーダー部の演舞、ビブリアバトル、広報ステージ、クラブ発表会など多彩なイベントが展開されました。また、各教室では文科系サークルの発表会やイベントが展開されました。

初日には、清光会館横で父母後援会、13号館前で同窓会の物産展がそれぞれ開かれ、地域の方々から多くの

来場者でにぎわいました。メインストロートの17号館前では期間中、各種の露店もお目見え、学生や家族連れが列をつくりました。また3日には、来年3月に飯能市にオープンするムーミンパレーパークからムーミンパパが来学、写真撮影会もありました。

実行委員会が選ぶ今年の【高麗祭大賞】には、漢方研究会=9頁に関連記事=が輝きました。その他の賞は次の通り。

【理事長賞】写真部【学長賞】城西ラクロス【優秀賞(父母後援会)】チアリーダー部【企画賞(同窓会)】シューレース【学生部長賞】漫画研究会



前サッカー日本代表監督の西野氏が講演

最終日の5日には、経営学部主催の特別講演会「西野朗氏が語る『チームマネジメント』」が17号館202教室(201教室同時中継)で開かれ、サッカー部や女子ソフトボール部の選手たちや一般学生らが、前サッカー日本代表監督の西野氏の話に熱心に耳を傾けました。

終了後は、サッカー部女子マネジャーから花束を受け取った西野氏は、両部との記念撮影にも応じていただきました。



講演会のあと花束を受け取り笑顔の西野氏

第2回 3大学合同大学祭

城西大、城西短期大、城西国際大の学生が主体となり運営

2018
10.14

城西大学と城西短期大学、城西国際大学による「3大学合同大学祭」が10月14日、東京紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。昨年に続き2回目の開催。3大学のゼミやサークルなど学生が主体となって運営。舞台構成、音響設備、会場演出、展示、模擬店など力を入れて準備しました。

午前10時のオープニングとともに大勢のお客さんが集まりました。特に、メインアトラクションとも言える「お化け屋敷」

は、特殊メークを駆使した本格的なアトラクションとあって行列が絶えませんでした。また、ラストのダンスパフォーマンスには、会場を埋めた観

客から大きな拍手が湧きました。短期大学の実行委員代表は太田翔平さん(2年生)。半年以上前からの準備、各大学との連携に苦労もありましたが、「こんなにたくさんの方が来てくださって、うれしい。頑張った甲斐がありました」と笑顔。副代表の諏訪未有さん(1年生)も「今日も飾りつけなどで大変でしたが、多くの人に支えられて頑張ることができました」と充実した表情を見せていました。



オープニングで挨拶する実行委員たち

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
半世紀の節目を終え、新たな一歩を歩いた高麗祭。「平成の集大成」と銘打った一大イベントは、学生たちのパフォーマンスあり、コンサートあり、お笑いあり、講演会ありと、さまざまな催しで彩られました。紅葉が始まったキャンパスで展開された平成最後の学園祭を学生、教職員が地域の方々とともに楽しみました。



体験から得た学びの成果を報告

——地域連携活動報告会

2018
10.17

今年度の地域連携活動報告会が10月17日、水田三喜男記念館講堂で開かれました。取り組んでいる活動内容を共有し、今後の教育や地域活動の向上に役立てることを目的に開催しました。

今年度の活動報告会は、学生が取り組んできた地域連携活動について実際に取り組んだ学生自身が発表をしました＝写真。学部が違う学生との協働で感じたためらいが、ともに活動するなかで消えたこと、自分たちがその地域で何が出来たか考え行動したこと、表には見えないところでの作業があったこと、学年を超えた協力があって成果に結びついたこと、学んできたことの違いで言葉の理解や考え方に違いがあったことが互いの理解へとつながったことなど、体験から得られたたくさんの学びの成果が報告の中で語られました。



活動発表それぞれの概要は、次の通り。

- (1)「つるがしマルシェ」と「アレックスのレモネードスタンド」など＝経済学部、大内弘之さん他
- (2)坂戸市・小川町での地域活動＝現代政策学部、鶴間瑞基さん他
- (3)ローカルヒーローの研究・実践活動＝経営学部、瀬谷祐一さん他
- (4)「緊急SOS!池の水ぜんぶ抜く大作戦」の掻い掘り作業ボランティア＝理学部化学科、中澤秀道さん、戸井田和希さん
- (5)行田ヘルシーメニュープロジェクト＝薬学部医療栄養学科、羽草里奈さん、藤井海波さん
- (6)彩の国連携力育成プロジェクト＝薬学部薬学科、黄田成章さん

東松山市長 森田光一氏が講演

——「今、地方自治体が目指しているもの」

2018
11.16

東松山市の森田光一市長による講演会が11月16日、短期大学で開かれました。「今、地方自治体が目指しているもの」がテーマで「キャリアデザイン」を受講する1年生と「ゼミナールB」を受講する2年生の計約100人が熱心に耳を傾けました＝写真。



森田市長は、東松山市の名物（やきとり）や特産品（梨）のほか、ウォーキングと花を中心に日本だけでなく世界に発信していく東松山市の魅力について紹介。人口減少と地域経済縮小の中、東松山市が力を入れている施策と具体的な成果について語りました。ユーモアも交えた森田市長の講演に学生たちは真剣な表情で聴き入っていました。講演会後には、「東松山市の魅力が分かりました」「東松山市に住んでみたいくなりました」「行政の仕事に興味を持ちました」などの学生の感想がありました。

「地域と大学」開講中

昨年引き続き2回目

2018
10.19

課題発見し問題意識を深めるグループワーク

後期の全学部授業である「地域と大学」が開講中です。昨年に続いて2回目。大学にあるミュージアムのほか、近隣地域などの施設について見学、体験を通して学びます。地域の文化施設について関心を持ち、課題を発見する力を身につけるとともにグループワークを通して問題意識を深めることが狙いです。

受講しているのは、経営学部や現代政策学部を中心とした約110人。今年は坂戸市内の遺跡や高麗神社・旧高麗郡遺跡、大石化石博物館、アクアマリンふくしまなどの見学箇所の講義を先に行い、受講者が自ら見学場所を選ぶ方式を取りました。

10月19日は、坂戸市の文化政策についての講演があり、同市立歴史民俗資料館の藤野一之係長が「坂戸の文化遺産」と題して話しました＝写真。藤野氏は文化財の種類や坂戸の地形、明治から昭和50年ごろまでの坂戸市の変化、多和目城跡など城西大学周辺の文化財などを紹介した後、「坂戸には特筆すべき埋蔵文化財が存在している」として、多くの古墳が発掘されている入西地区と勝呂地区を挙げました。特に11月に見学した勝呂地区について「古墳と古代寺院、官道がセットとして分かるのは全国的にも珍しく、坂戸市が保有する貴重な文化遺産」と述べました。講演後、受講者からは「身近な所に遺跡があることが分かった」や「ベッドタウンを造成する時に歴史的発見があったか」など感想や質問がありました。



姉妹校留学生の歓迎会 130人参加

手拍子しながら歌口ずさみ交流深める

2018
10.5

9月に入学した姉妹校留学生の歓迎会が10月5日、第二食堂で開かれました。歓迎会には、V4（ハンガリー、ポーランド）と韓国、台湾、マレーシアからの交換留学生や中国からの共同教育プログラム留学生、別科に通う留学生など約70人に加え、本学の国際交流をサポートするボランティア学生グループ「JIST（Josai International Supporters' Team）」のメンバー21人、教職員ら計130人が参加して盛大に行われました。

白幡晶学長の歓迎の挨拶を受けて、各国の留学生代表が挨拶をし、流暢な日本語でこれからの目標や抱負などを述べました。また、JISTメンバーによる歓迎パフォーマンスとして、「It's a small world」と「世界に一つだけの花」を熱唱し、留学生は手拍子しながら歌を口ずさみ、少しずつ会場内の緊張がほぐれてきました。終始和やかで友好的なムードの中、参加した留学生と日本人学生が連絡先の交換をするなど交流が深まる良い機会となりました。



△白幡学長を囲み皆で記念撮影

高塚人志氏「コミュニケーション」特別授業

——元鳥取大学医学部准教授 ヒューマンコミュニケーション教育を長年実践

2018
10.10

「ヒューマンコミュニケーション」教育を長年実践されてきた元鳥取大学医学部准教授の高塚人志氏の特別授業が10月10日、清光ホールで行われました。薬学部の1年生全員を対象にした今年度初のフレッシュマンセミナーで、約370人の学生が、3限と4限を使ってコミュニケーションをするとはどういうことか、いくつかの体験学習も交えて学びました。

高塚氏は1950年、鳥取県生まれ。順天堂大学体育学部を卒業後、鳥取県内の3高で保健体育科教諭を務めました。2005年から鳥取大学医学部准教授になり、ヒューマンコミュニケーション教育を実践してきました。また、自らの病気体験から生活の基本である「食」の重要性についてのメッセージも発信してきました。「食卓からの叫び」「いのちにふれる授業」「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」など著書多数があります。

高塚氏は3限の授業で、企業や医療現場でも「コミュニケーション能力」の重要性はますます高まっていると指摘。「コミュニケーションとは、お互いの考えや気持ちを理解し合うことで、特に相手に関心を持つこと、表情を見てよく聴くことが大切」と述べました。大きなホールでは初の授業とあって高塚氏はホールを移動し、膝をついて学生に話

しかけていました＝写真④。

4限では、学生たちが2人1組のパートナーになり、鉛筆を指で支えて運ぶ体験学習をしました＝写真⑤。削った鉛筆の先端に指を当てているパートナーの痛みを想像することで、相手の立場に立つことの大切さを学びました。学生たちは「聴き手」と「話し手」に役割分担した社会人向けプログラムも体験。最後に最前列の学生がこの日の授業の感想を披露。「今日のことは一生忘れないで、覚えておこうと思った」「今日学んだことをいろいろな面で生かしていけたらと思った」「とても貴重な体験となった」「将来、患者さんと分かり合える医療人になります」などと発言するたびに会場から大きな拍手が湧き起こりました。



「城西大学スピーチコンテスト」開催

日本語スピーチコンテスト

2018
10.27

動画アプリの影響語った吉珂凡さんが最優秀賞

第27回城西大学日本語スピーチコンテストが10月27日、水田三喜男記念館講堂で開かれました＝写真①。在日3年未満の外国人留学生が、日本語学習の成果を競うもので、この日は城西大学の8人を含む13人で行われました。

参加したのは、中国、ミャンマー、ポーランド、デンマーク、台湾、フランスからの留学生。持ち時間7分で、日本について感じたこと、発見したことなどを落ち着いた口調で発表しました。最優秀の城西大学学長賞には、若者を中心に人気のある動画共有アプリの影響を語った中国の吉珂凡さん（別科）が選ばれました。



①

中国語スピーチコンテスト

2018
10.20

最優秀賞に柁原唯さん、埼玉県知事賞に吉崎桜さん

第6回城西大学中国語スピーチコンテストが10月20日、水田三喜男記念館講堂で開かれました＝写真②。当日は朗読の部6人、スピーチの部7人の計13人が、日ごろの中国語学習の成果を披露しました。また、滞在歴等の関係で本選には、出場できなかった学生2人が自身の経験を交えた特別スピーチを行いました。

スピーチ終了後には、言語学研究が専門で、日本語と中国語の言語の違いに精通されている大東文化大学名誉教授の高橋弥守彦氏の講演会もありました。最優秀の城西大学学長賞には武蔵野大学の柁原唯さん、埼玉県知事賞には日本大学の吉崎桜さんが選ばれました。



②

英語スピーチコンテスト

2018
11.17

最優秀賞に藤戸美妃さん、最優秀賞に橋本簡美さん

第8回城西大学英語スピーチコンテストが11月17日、水田三喜男記念館講堂で開かれました＝写真③。全国から応募のあった31校112人の中から事前審査で選ばれた22人（高校生15人、大学生7人）が、身ぶり手ぶりを交えながら滑らかな英語で自身の体験などから感じたことなどを発表しました。

最優秀の城西大学学長賞には、高校の部は異文化交流では共通点を探すことが必要と訴えた関西学院千里国際高等部の藤戸美妃さんが、大学の部は「自尊心を高めて幸せな人生を送ろう」と題してスピーチした関西大学の橋本簡美さんが選ばれました。



③

全日本駅伝8位入賞 シード権奪取

2018
10.8/
11.4

出雲駅伝に続く好成績 箱根に向け弾み



全日本で左巻を挙げてゴールする金子選手

第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会は11月4日、愛知県名古屋市の熱田神宮から三重県伊勢市の伊勢神宮までの8区間106.8^{キロ}で行われました。2年連続7回目の出場となった男子駅伝部は過去最高の8位入賞を果たすとともに、今年から8位以内となったシード権を奪取しました。萩久保寛也選手(経営学部3年)は2区で区間賞を獲得、最終8区の金子元気選手(同4年)は2人を抜いて、シード圏内にチームを押し上げました。10月8日に行われ、初の8位入賞となった出雲選抜駅伝に続く好成績で、来年正月の箱根駅伝に大いに弾みがつく結果となりました。

榑部静二監督は「チーム力が全体的に上がっていて、かつてないほどの手応えを感じています。(箱根本戦では)先手必勝で流れをつくり、1、2区で先頭が見える位置にいたい。それができればチームも乗ってくる。5番という目標はありますが、やはりもっと上の先頭が見える勝負を学生たちにはしてもらいたいと思います」と語り、服部潤哉主将(同4年)も「今年は7位でしたが、その後のシードまで大差がなく、また今年の子選会で力をつけて走っているチームを見ると、自分たちも油断はできないと思います。箱根で自分たちはこう走りたいという強い気持ちを持って準備していきたい」と話しています。

関東選手権8位入賞 杜の都駅伝は14位

2018
9.30/
10.28

第24回関東大学女子駅伝対校選手権大会は9月30日、千葉県印西市の千葉ニュータウン周回コース(6区間29.9^{キロ})で行われました。女子駅伝部はアンカーの上田未奈主将(経済学部4年)が区間賞の快走を見せ、昨年の5位から順位を落としたものの8位入賞を果たしました。OBの赤羽周平監督、夫人で北京五輪長距離代表だったOGの有紀子コーチを迎えて新体制となった女子駅伝部にとって、最初の駅伝レースとなりました。

シード権を獲得していた第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)は10月28日、宮城県仙台市の旧・仙台市陸上競

技場一仙台市役所前広場の6区間(38.0^{キロ})で行われ、女子駅伝部は14位でした。12月30日の全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)への出場権(12位)を目指して力走したものの届きませんでした。しかし、一時は20位まで順位を落としましたが、後半盛り返して14位まで順位を上げました。富士山女子駅伝では、チーム7人の5000^米の合計タイムが上位の8大学にさらに出場権が与えられるため、選手たちはその後の記録会で奮起、4位で出場権を獲得しました。



関東大会で区間賞の上田選手

食でスポーツをささえる、サークル誕生 代表は女子駅伝部選手の佐光さん メンバー40人

「食でスポーツをささえる」をコンセプトに薬学部医療栄養学科にスポーツ栄養サポートサークル「ANSWER」が誕生しました。メンバーは約40人。代表は女子駅伝部の選手でもある佐光菜々子さん(3年)で、佐光さんは「サークルの活動を通じて城西や地域のスポーツを盛り上げていきたい」と意気込んでいます。

サークルの顧問は管理栄養士で公認スポーツ栄

養士でもある伊東順太助教と君羅好史助教。まず手掛けたのは、女子駅伝部を対象にした「鉄分補給プロジェクト」。女子駅伝部では貧血予防にレバーを摂っていましたが、レバーが苦手な選手もいたため、おいしく鉄分補給ができることを目指して「アサリの佃煮」を考案しました。また4月には君羅助教の知り合いのプロフットサル選手を招いて1回目のアスリートトークを開催。競技やトレーニングにおける食事の重要性などについて貴重な話を聞きました。

サークルでは次の食材プロジェクトやアスリートトークの準備を進めているほか、学外へも活動を広げていきたい意向。管理栄養士を目指している佐光さんは「学科は演習など授業が多く大変な面もあるが、国家試験の勉強をやりながらしっかりレギュラーメンバーで走って、みんなと一緒に引退したい」と話しています



代表の佐光菜々子さん(中央)、右は伊東助教、左は君羅助教

本学体育館でプロバスケットBリーグ試合

2018
11.17
~18

——埼玉ブロンコスvs.大塚商会越谷アルファーズ

プロバスケットボールBリーグの埼玉ブロンコスと大塚商会越谷アルファーズの試合が11月17、18の両日、総合体育館で行われました=写真。埼玉ブロンコスは埼玉県所沢市とさいたま市を中心とした埼玉県全土をホームタウンとするB3リーグに所属するプロバスケットボールチーム。今年度から城西大学がスポンサーに加わったことから、本学での試合開催が実現しました。

17日の始球式は坂戸市の石川清市長が務め、18日は白幡晶学長が

行いました。両日とも試合開始前とハーフタイムに全学応援団チアリーダー部が、パフォーマンスを披露し、試合の盛り上げに一役買いました。また、バスケットボール部の部員がフロアを拭くモップを務めました。総合体育館では2階席のほかに、フロアにも椅子の特別席を設け、多くの来場者が迫力とスピード感のあるプロの試合を堪能しました。



フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンに登場いただくとともに付属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、自宅物置に駅舎をつくるなど鉄道愛好家としても知られる日高市消防団の和田貴弘団長(50)と、絵画などの制作に打ち込んでいる付属川越高校の美術部に焦点をあてました。

消防団の最高栄誉「まとい」を受章

日高市消防団長 和田貴弘さん

——昨年、日本消防協会から特別表彰「まとい」を受章されました。

「『まとい』は全国の消防団のうち、特に優れた活動をしている10の消防団に贈られる最高の栄誉で、県内では8団体目の受章と聞いています。その前年に県の消防操法大会で優勝していたことに加え、50年以上にわたり1人の欠員もないこと、県内では初めてで全国的にも珍しい赤バイ隊を導入していることなどが評価されたのだと思います。赤バイ隊は、火災や災害時に本隊に先行して情報収集や伝達などに当たるもので、2012年に7台体制となりました」



——消防団の定数とは?

「人口や面積などによって市町村ごとに決められているもので、

日高市は161人となっています。消防団員の数は全国的に減少傾向にありますが、先輩方が引き継いできてくれておかげさまで、欠員なくきています。そこは誇れるところです」

——今年は全国消防操法大会で出場した第3分団が優良賞を受賞された。どんな訓練を?

「団員は仕事が終わった後、飯能日高消防署に集まってナイター照明で訓練をします。分団によっても違いますが、2年に1度の大会が近づくと週に2、3回、直前になると毎晩と熱が入ってきますね。日高市としては準優勝だった1998年以来20年ぶりの全国大会出場で、優勝を目指していましたが、ここまでよく頑張ってくれました」

——日高市消防団の一体感はどこから?

「日高市はもともと高麗村、高麗川村、高萩村の3村合併で出来た町なんですけど、自分達の町は自分たちで守るという精神は昔も今も変わらず継承されていますし、地域密着性や、この町が好きだという地元愛が一体感を育んでいると思います。ボランティアではありませんが、どうせやるなら消防団員としての誇りを持ち、やるべき事はしっかりやっただで楽しむときは楽しむ。メリハリをつけながら活動したいと思っています」

埼玉私立中高協会会長賞など受賞多数

付属川越高校美術部

「楽しく美術を学ぶ」をモットーに、高校生37人と中学生6人が活動しています。絵画に彫刻、写真の3部門。活動は美術室で週5回、午後4時から7時と運動部並みの熱心さ。部長の山口遥輝さん(2年)は「制作は個人でやるものですが、それぞれの作品を見て批評し合うなど団体の側面もあって、部活は楽しいです」と話します。

部の大きなイベントは9月の「けやき祭」(学校の文化祭)と11月の私学文化祭。11月3、4日に開かれた今年の私学

文化祭には、絵画部門15点、漫画・イラスト部門5点、彫刻部門2点、写真部門3点を出品。山口さんの大きな鉛筆画が、埼玉県私立中学高等学校協会会長賞を受賞するなど多くの賞に輝きました。

また今回のテーマとなった「芽一成長の喜び」は、柳澤樹さん(2年)の応募作。柳澤さんは「芽は、土や光、水といったいろいろな

環境があって生まれてくるもの。さまざまな環境から生まれてくる芸術や作品にも通じると発想しました。選ばれてうれしかった」と笑顔で語りました。

顧問歴14年の清水啓一郎教諭(芸術科主任)は「何もないところから何かをつくる。そして出来上がったときに喜びを感じる。その経験は、生徒たちが社会に出た時に必要とされる人間力を育てることになる」と美術の素晴らしさを強調します。東京藝術大学にはこれまで6人が進学。山口さん、柳澤さんの2人も進学希望だそうです。



前列左から3人目が山口さん、4人目が柳澤さん=私学文化祭の出展作の前で

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は医療や福祉施設の衛生管理サービスなどを展開する株式会社ビコー取締役社長、瀧澤秀和さん(38)を契約先の埼玉医科大学国際医療センターに訪ねました。



人との付き合いを大切に 母校とも良い関係でいたい

株式会社ビコー取締役社長 たきざわひでかず 瀧澤秀和さん (2003年 経済学部卒)

— 学生時代に打ち込んだことはなんですか。

「大変有名だった城西大学空手道部に入学したくて、経済学部経営学科に入学しました。学生時代は空手ばかりやっていたこともあり、自慢ではありませんが、成績は大変悪かったです。大学2年生のころ、ちょうどITバブルだったこともあって、ITベンチャーを起業することを考え、独学でITを勉強し始めました。父に頼んで父の知り合いの東京都渋谷区にあったITベンチャーを紹介してもらい、その企業でアルバイトをしながらITを勉強させてもらいました。そのIT企業は多国籍の社員で構成されていて、日本人のほか、韓国人、中国人、アメリカ人、インド人らが英語で会話をしていた仕事をしていました」

— これまでの人生の大きな転機は何でしたか。

「単位を落とし、再履修するほどに英語が苦手だった私は、当然にITベンチャーの社員とは日本語で話をしていました。特に韓国人の先輩は、非常に優しく丁寧に、しかも日本語で私にいろいろと指導してくれました。この体験が私に衝撃を与えたのです。「英語を話せるようになりたい!」と、ここで一念発起し、大学3年の年に1年間休学してアメリカに留学をしました。この留学体験がその後の私の人生にどれほど大きな影響を与えたか分かりません」

— ビコーさんの売りはなんですか。

「弊社は清掃業務を主としたビルメンテナンス業で、顧客の8割強は医療・福祉施設です。清掃を通じた院内感染対策が主力サービスとなっています。昨今は、人手不足が日増しに深刻化していますが、弊社も例外なく人手不足に苦しめられています。そこで、清掃ロボット=写真①=を活用する道を選びました。9年ほど前から研究を始め、今では現場に55台の清掃ロボットが入り、人の代わりに掃除をしています。条件にもよりますが、最大で清掃スタッフの人数が半分になった現場もあります」



■株式会社ビコー

1979年設立。医療施設や介護施設に特化した日常清掃、定期清掃、特殊メンテナンスを中心にサービスを提供するほか、微生物検査・水質検査やカルチャーセンターなど幅広く手掛ける。従業員はグループ全体で約500人。契約している医療・福祉施設などは約120に上る。「私たちは、心の手で企業活動を行います」などが企業理念。
〒350-0445 埼玉県入間郡毛呂山町葛貫700。
Tel:049-295-4131。

— 好きな言葉(座右の銘)、愛読書を教えてください。

「好きな言葉は『夢』です。大きな挫折を味わった時、自分は夢がないと生きていけない人間だということが、はっきり分かりました。弱い自分を支えるために『夢』という柱が、私にはどうしても必要です。好きな本は、埼玉県出身の渋沢栄一著『論語と算盤』です。私自身、経営者に向いていると思ったことは一度もありません。私はいわゆる二代目社長ですので、三代目にバトンを渡す中継ぎ役です。先代の長所を最大限生かし、次の世代により調和の取れた会社を引き継いでいくための指図書として読み込んでいますが、どこまで内容を理解しているか疑問ですね(笑)」

— 母校へ一言お願いします。

「社会に出てからも、城西大学の先輩、同期、後輩、職員の皆さんに何度も助けていただいたり、応援していただいたりしました。今日現在でもですし、今後もだと思えます。また、弊社には城西大学の卒業生も多く就職してくれています。城西大学関係者から助けていただくことが多い私ですので、人と人との付き合いを大切にすることを重視しています。母校とは、これからも良い関係でいたいと願っています」

学生瓦版

広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回は漢方研究会と中央委員会を紹介します。

生薬料理から企業見学まで広く学ぶ

漢方研究会 部長 木部正和さん(薬科学科2年)

漢方研究会は、薬学生のサークルから始まり、今では他学部の学生も参加する約180人の大所帯のサークルだ=写真。月曜日の昼休みに定例会(15号館201号室)を開き、月に2、3回は土曜日にも活動している。

活動内容は、学内では主に生薬を使った食べ物やアロマキャンドル、ハンドオイルを作ったりし、学外では企業や現場などを見学して交流を深めている。こうした活動のほか、球技大会なども開いて親睦を図っている。活動を通じて目標を共有し、人とのかわりから広い視野を持って学んでいくことを心掛けているという。木部正和部長(薬科学科2年)は「漢方をテーマにいろいろな学部の部員たちと日々交流、活動しています」と話す。興味のある学生は定例会を覗いてみてはどうだろう。(取材:財務局一同)



※広報委員会ではニュース・話題を募集しています jukoho1@gmail.com

責任がメンバーに大きな力を与える 中央委員会

広報委員会などの各委員会の統括を行っている中央委員会=写真=は、各委員会の長との話し合いや新入生歓迎会など全体が参加するイベントの中心を担っている。現在は1年生6人、2年生6人、3年生3人、4年生5人の計20人がメンバーだ。

毎週金曜日に学友館中央会室で定例委員会、毎年4月は各委員会・団体の勧誘活動のとりまとめ、夏には委員同士の交流を深める合宿があり、今年度は2泊3日で山梨へ行ったという。高麗祭では毎年内容は変わるが、露店を出したり、オープンキャンパスの手伝いもしたりしている。冬には各団体の代表者とリーダーズキャンプを行い、学生の要望をまとめて大学側に伝える、大学と学生との懸け橋となる役割を担っている。

活動は真面目に取り組み、楽しむ時は楽しむ。責任感のある仕事だが、その経験がメンバーたち一人ひとりに大きな力を与えているという。(取材:編集局一同)



~2018.12.22

浮世絵収蔵品展 「三代豊国—国周一周延」

水田美術館ギャラリー1で「浮世絵収蔵品展 三代豊国—国周一周延」が12月22日まで開かれています=写真。三代歌川豊国と弟子の豊原国周、そして国周の弟子の楊洲周延と、幕末から明治にかけて活躍した3人の浮世絵師たちの作品を中心に26点を紹介しています。



三代歌川豊国(1786~1864)は、大歌川派を率いて幕末の浮世絵界を牽引した絵師。初代歌川豊国に弟子入りし、その画才に師匠の豊国も絶賛するほどでした。22歳の時に美人画でデビュー、その後、役者絵で大成しました。今回の展示では、水田コレクションから2点の役者絵と収蔵品から1点の美人画を紹介しています。

豊原国周(1835~1900)は、「明治の写楽」とも呼ばれる絵師。14歳で三代豊国に入門、豊国風の役者絵や美人画を手掛けました。明快な形式で役者の持ち味を写實的に表現した国周の役者絵は、戊辰戦争の混乱により不振に陥っていた歌舞伎人気を再燃させたと言われるほどでした。収蔵品から明治13(1880)年に出版された12枚揃い《十二月花合》全12点を紹介しています。

楊洲周延(1838~1912)は、国周の弟子となって国周の流れをくむ役者絵をはじめ、西南戦争が主題の戦争画や明治の貴顕たちを描いた作品、江戸時代風俗を主題とした作品など幅広い画域を誇った絵師。特に美人画に優れ、日本の歴史を美人で振り返る《時代かみ》(大判錦絵52枚揃い)シリーズのうち9図を紹介しています。

2018.12.13~2019.1.26

坂戸市所蔵美術品展 「現代版画の世界」後期展

坂戸市が所蔵する現代版画を紹介している「坂戸市所蔵美術品展 現代版画の世界」は12月13日から後期展が始まっています。来年1月26日まで。前期展と同様に、版画の持つ多様な表現世界が楽しめる展覧会です。

坂戸市は油彩画、日本画、版画、書など現代を中心とした美術工芸品を約150点所蔵しています。その中で現代版画に焦点をあて、銅版画やリトグラフ、木版画を紹介している今回の美術品展。後期展では、独自の銅版画の世界を確立し書籍の装幀、挿絵を手がけるほか、絵本やエッセイの著作も多い山本容子(1952~)の作品=写真=や鈴木英明(1945~)、筆塚稔尚(1957~)の3人の銅板・木版画計22点を展示します。



地域相互協力館の「図書館まつり」に参加

9月29、30日に鶴ヶ島市立中央図書館で開催された第31回図書館まつりに参加して「江戸時代の娯楽としての数学」をテーマ

に当館資料の展示を行い、約150人の方にお立ち寄りいただきました=写真。今回は理学部数学科教授・小木岳岳先生のご



協力で『塵劫記』を中心に江戸時代の庶民が親しんだ数学関連の資料を紹介し、理学研究科数学専攻の大学院生による江戸時代の和算を応用したゲームなども楽しんでいただきました。

初日に開催された「ビブリオバトル IN 鶴ヶ島市立中央図書館」には図書館学生アドバイザーである、経済学部4年の河村稜太さんが『ふしぎの森のヤーヤー』で参戦。同じく経済学部4年の笠原銀太さんはマーケット運営に協力するなど、学生が地域の方々と交流する良い機会となりました。

「全国大学ビブリオバトル2018～首都決戦～予選会」および「地区決戦」出場

10月5日に「全国大学ビブリオバトル2018～首都決戦～予選会 城西大学」を7階ラーニング commons で開催しました=写真。今年度は13名のパトラーが3試合に分かれて発表。学生や教職員など計137人の観戦者の投票により、以下の3冊がチャンプ本に選ばれました。

- ▷ 現代政策学部3年・石井宥名さん紹介『街の灯』
- ▷ 現代政策学部3年・石曾根悠斗さん紹介『乱反射』

▷ 理学部化学科3年・寺谷充斗さん紹介『虐殺器官』

予選会を勝ち抜いた石井さんと石曾根さんは10月30日の関東Eブロック地区決戦、寺谷さんは11月25日の関東Cブロック地区決戦に出場しました。3人ともチャンプ本は逃しましたが、石井さんは自身と紹介本との出会い、石曾根さんは本



の構成の面白さ、寺谷さんは紹介本の作家への想いなどについて熱く語ってくれました。

「第10回地域相互協力図書館合同主催公開講座」を開催

10月27日に坂戸市立中央図書館で近隣の相互協力図書館(坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町)との合同主催公開講座「健康食品との正しいつきあいかた」を開催し、近隣から遠方の方まで75

人が聴講しました。本学薬学部准教授の清水純先生から食品に含まれる栄養素やその機能、数多くある健康食品の細かな違いなどを丁寧に説明いただき、参加された方々は熱心に耳を傾けていました=写真。

学生アドバイザーが図書館総合展ポスターセッションで優秀賞

10月30日～11月1日まで、パシフィコ横浜で開催された第20回図書館総合展のポスターセッションに「図書館学生アドバイザーの仕事全部見せます!」のテーマで参加しました。今回は5年ぶりに学生アドバイザーが主体となりポスターを作製し、その結果、84作品中4

位で優秀賞を受賞することができました=写真。アドバイザーは総合展2日目の「第3回全国学生協働サミット」にも参加し、自作のPR動画を上映するなど、学生協働にかかわる全国40近くの大学の学生および教職員と交流を図るなど貴重な経験となりました。



エリア紹介

越生町

武蔵越生七福神めぐり

武蔵越生七福神めぐり=写真は商売繁盛の恵比寿「法恩寺」、福德・財宝の大黒天「正法寺」、音楽と弁才の女神・弁財天「弘法山観世音」、幸運と長寿の福祿寿「最勝寺」、長寿の寿老人「円通寺」、財宝の毘沙門天「龍穩寺」、福德円満の布袋尊「全洞院」を巡る約13km、3時間15分の自然豊かなハイキングコースです。

新年1月4日(金)には、毎年恒例の第35回

新春武蔵越生七福神めぐりを開催します。七福神をめぐって多くの福を手にし、幸せな1年のスタートとして歩いてみませんか。

- ▷【スタート時間】午前9時～10時
- 【場所】法恩寺(越生駅から徒歩2分)
- ▷【ゴール時間】正午～午後4時
- 【場所】東上閘駐車場

※帰りは川越観光バス(黒山バス停～越生駅バス停:350円)をご利用ください。問い合わせは、越生町役場産業観光課(Tel:049-292-3121 内線145)。



東武線沿線情報

見どころいっぱいの横浜ベイエリア

東上線沿線から、見どころいっぱいの横浜ベイエリアへは、乗り換えなしで一直線。港町ならではの海辺の風景、今の時期はイルミネーションも楽しめ、中華街やオシャレな

レストランで美味しいディナーはいかがでしょうか。

お出かけには、便利でお得なきっぷ「東上横浜ベイサイドきっぷ」がオススメです。

【東上横浜ベイサイドきっぷ】

東上線往復割引+東京メトロ副都心線乗り降り自由+東急東横線往復割引+横浜高速みなどみらい線乗り降り自由

問い合わせは、東武鉄道お客さまセンター(Tel:03-5962-0102)

8:30～19:00(年中無休) ※ただし年末年始を除く



毛呂山町

日本最古の生産ゆず「桂木ゆず」

毛呂山町では奈良時代からゆずを栽培していたとされる言い伝えがあり、このことから日本最古の生産地といわれています。「新編武蔵風土記稿」によると、江戸時代には毛呂山のゆずは特産として認められていたことが分かります。昭和初期には、付近の青物商の手によって「桂木ゆず」というブランドで東京市場に盛んに出荷されており、高値で取引される高級品でした。

「桂木ゆず」は、水はけがよく北風も吹かない滝ノ入地区の気候風土により実が大きく皮が厚く、香りが高いのが特徴です=写真。

1月中旬までは、黄色に輝く実を付けたゆず山を歩くのもおすすめ。山を歩くとゆずの香りがほんのり漂ってきます。また、毛呂山町内の直売所では、ゆず巻きやゆず味噌など桂木ゆずを使った加工品を購入することができます。

お問い合わせは、毛呂山町役場産業振興課内(Tel:049-295-2112 内線213・214)へご連絡ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
Tel:049-271-7712
http://www.josai.ac.jp